

山犬嶽

山犬嶽（997.6 m）の苔に覆われた景色は徳島では有名ですが、その他の場所ではまだほとんど知られていません。地元の言い伝えによれば、山頂の岩が口を開けたヤマイヌ（山犬）に似ていたことから、この名前がつけられたそうです。1701年に山の大部分が崩壊し、現在の形になりました。この山は、その数多くの異形の巨石のために、修験道と呼ばれる山岳修行を行う混淆宗教においては聖なる山とみなされています。また真言宗の開祖、空海（774-835）ゆかりの山としても崇められており、雨ごいに最適な山として知られています。

ハイキング

山犬嶽の登山口は檜原の棚田の北東にあります。標識はすべて日本語で書かれているので、ガイドと一緒にいくか、登山口にある箱から地図を手に入れておくのがよいでしょう。登山コースは原生林の中を通り抜け、道沿いには88体の小さな仏像があつて、有名な四国88寺院巡礼のミニチュア版を構成しています。

森の中に入って40分ほど行くと、岩が厚い苔ですっぽり覆われているようになります。苔は一年中見ることができますが、六月の梅雨の時期から初夏にかけて最も緑が濃く、しっとりフワフワとしています。

東の登山道はその後森と山を見渡せる展望岩へと続きます。山頂までの険しい登山道は太平洋まで一望できる東光寺を通り過ぎます。西に向かう登山道は、山頂および雨の神に献げられている雲早神社へと続いています。